

【リウマチ膠原病アレルギー科】

1. 研修指導責任者 縄田 泰史
指導医 縄田 泰史

2. 定員 各期間1名まで

3. 基本的目標

「リウマチ性疾患(膠原病とその類縁疾患)・アレルギー疾患」は、全身的疾患であり、その診療には、内科全般にわたる臨床能力を修得し、患者を全身的にとらえることが不可欠である。内科一般の知識を持ち、かつ「リウマチ性疾患、アレルギー性疾患」の病因、病態を把握し、その診断と治療を理解し、必要に応じて専門医に適切に紹介できる医師を育てることを目標とする。

4. 具体的目標

- (1) 免疫系の仕組みと、その構成要素(リンパ球など)について理解する。
- (2) アレルギー性疾患の発症機構と病態について理解する。
- (3) リウマチ性疾患の発症機構と病態について理解する。
- (4) アレルギー学的検査の意味を理解し、その結果を解釈する。
- (5) 自己抗体等免疫学的検査の意味を理解し、その結果を解釈する。
- (6) リウマチ・アレルギー性疾患における、血算・凝固検査、生化学検査、尿検査を理解し、その結果を解釈する。
- (7) リウマチ・アレルギー性疾患における免疫血清学的検査の意義を理解し、その結果を解釈する。
- (8) リウマチ・アレルギー性疾患の一般内科学的診察、および各疾患に特徴的な理学所見、皮膚所見、関節所見などを理解し、把握する。
- (9) 気管支喘息の発症機序、診断、重症度、治療を理解し、経験する。
- (10) アナフィラキシー、薬物・食物アレルギーの病態、診断、治療を理解する。
- (11) 関節リウマチの病態、診断(病期、重症度)、治療(生物学的製剤を含む)を理解し、経験する。
- (12) 代表的膠原病(SLE、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、血管炎症候群)の病態と合併する臓器病変を理解し、その診断、治療を経験する。
- (13) 膠原病類縁疾患(ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症など)に関して理解し、診断、治療を経験する。
- (14) 副腎皮質ステロイド剤、各種免疫抑制剤の作用機序および副作用を理解し、治

療を経験する。

(15) 膠原病が疑われる症例の診断へのアプローチを理解し、経験する。

(16) 不明熱の鑑別診断を理解し、経験する。

5. 経験した方がよい主要疾患、症候

(1) 膠原病リウマチ性疾患：

1) 関節リウマチ(悪性関節リウマチを含む)

2) SLE、膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、血管炎症候群などの古典的膠原病(シェーグレン症候群を含む)

3) 膠原病類縁疾患(ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症など)

4) 膠原病に合併する臓器病変: 中枢・末梢神経症状、間質性肺炎、腎炎、漿膜炎、心不全、皮膚病変(潰瘍など)消化管病変(潰瘍、イレウス)

5) 膠原病に合併する病態: 血液学的異常(溶血性貧血、血球減少症)、リンパ腫、動静脈血栓症(抗リン脂質抗体症候群、深部静脈血栓症)

6) 膠原病の治療に合併する病変: 日和見感染症、糖尿病、骨粗鬆症、骨壊死、精神症状、高脂血症、胃潰瘍、動脈硬化

(2) アレルギー性疾患： 気管支喘息、蕁麻疹、アナフィラキシー、食物アレルギー

薬物アレルギー、好酸球増多症、過敏性肺臓炎

(3) 不明熱

6. 週間スケジュール

月曜日 PM:カンファレンス

火曜日 夕:抄読会

水曜日 PM:病棟回診、カンファレンス、症例検討

(金曜日 夕:膠原病症例検討会(月1回)関連施設合同)